

朝夕の風に秋が感じられるようになりました。夏の疲れがでるころですが、しっかり身体を休めて、秋の活動にそなえましょう。

お知らせ

- ・園遊会・秋 9月23日(金・祝) ヴォーリズ六甲山荘
- ・イラストから観るアメニティ 2000 協会の歩み～長瀬信博イラスト作品展 10月8日(土)～14日(金) 六甲山荘
- ・ヴォーリズ建築文化全国ネットワーク全国大会 10月23日(日) 東京・明治学院
- ・てづくり工房ほりだし市 11月3日(木・祝) 草志舎
- ・東日本大震災被災者支援コンサート 11月23日(水・祝) カトリック夙川教会
- ・町並み研究会～和歌山 12月11日(日)～12日(月) 天神崎ほか

予告1

園遊会・秋

秋の園遊会では一味ちがう音楽を楽しんでいただきます。オルゴール収集家の工藤正登さん所有のディスク型オルゴールが奏でる澄んだ音色は六甲山荘の空間にぴったりです。楽しみにおこしください。

日時 2011年9月23日(金・祝) 午前11時～午後3時半

場所 ヴォーリズ六甲山荘

入場料 1,500円(コーヒー/紅茶+ケーキつき) 要予約

昼食 石窯ピザ*サンドイッチ(600円)

詳しくは同封の案内チラシあるいはホームページをご覧ください。

予告2

イラストから観るアメニティ 2000 協会の歩み～長瀬信博イラスト作品展

会員で建築家でもある長瀬信博さんは創立メンバーで、協会のロゴをはじめ、当初から協会の出版物の表紙やコンサートのプログラムなどをデザインしてこられました。皆さんも品のある色づかいの温かみのある絵柄をよくご存知のことと思います。このたび10年にわたってアメニティ 2000 協会のために描かれた作品を中心に、スケッチなどを一堂に集める展示会を企画しました。「ながせワールド」をご覧にぜひおいでください。

日時 2011年10月8日(土)～14日(金) 午前11時～午後4時 (8日は午後3時まで)

場所 ヴォーリズ六甲山荘

入場料 500円

オープニング・コンサート 10月8日(土) 午後3時より 参加費 1,500円

出演: 畑儀文(テノール)、春木浩子(ハープ)

詳しくは同封の案内チラシあるいはホームページをごらんください。

ご報告

東日本大震災支援活動

被災者六甲山荘宿泊 8月4日 ヴォーリズ六甲山荘

震災支援活動をしている神戸ユニバーサルのフレンドシップ委員会から被災した障害者の子供を関西に迎えるプランがあり、当協会も賛同して、そのうちの1泊を六甲山荘で宿泊していただきました。被災者家族(母親と障害者の小学生)2組とフレンドシップ委員会のメンバーがバーベキューを楽しみ、和やかなひと時を過ごされました。今後もこういう形でお役に立つことがあればお受けしたいと思っています。



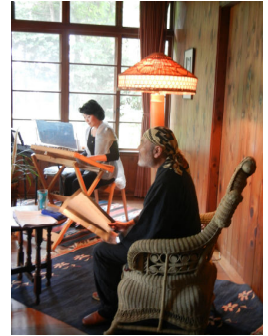
*写生会 8月10日(水) ヴォーリズ六甲山荘

天気に恵まれ、多数の親子(親12名・子供15名)の参加でした。被災者は1家族6名が参加されました。午前中は前田先生と物應助手の指導で屋外・屋内で絵を描きました。親子が一緒にキャンバスに向かう光景はほほえましく華やいだひと時でした。昼食は前庭で石窯ピザ。自家製アイスクリームも好評でした。午後はガイドハウスの米村さんの指導で記念碑台周辺の自然のなかで植物・生物の観察をしました。



*園遊会・夏 8月20日(土) ヴォーリズ六甲山荘

今回は菅原哲夫さん(岩手弁による朗読)といたむつみさん(フランスシター)のコラボレーションが素晴らしかったです。2回の公演とも満席で、皆さんから大変よかったと感想をいただきました。昼食の石窯ピザも上手に焼きあがり、おいしいと喜んでいただきました。昼食とお茶のサービスで頑張ってくださったスタッフの皆さん、お疲れ様でした。参加者58名



*被災団体「はちのへ小さな浜の会」への寄付

アメニティ2000協会が法人会員となっている(社)日本ナショナル・トラスト協会の団体会員である「はちのへ小さな浜の会」(青森県八戸市)が保全している名勝地種差海岸も今回の津波が押しよせ、情報センターであり活動拠点である浜小屋が流されました。現在その復興にむけた取り組みが進められています。日本ナショナル・トラスト協会はその活動を応援するために「種差海岸募金」を設置し、募金をよびかけています。

アメニティ2000協会も応援のため、震災助成金から2万円の募金をしました。

《連載》 私たちの先駆者(第8回)

清水 彬久

ビアトリス・ポター<英国ナショナル・トラストに賛同した人々> その1

ビアトリス・ポター(1866~1943)は、「ピーター・ラビット」の絵本作家として著名です。また創生期の英国ナショナル・トラストの良き理解者として貢献したことで知られています。この足跡は英国北部にあたる湖水地方が舞台となりました。ロンドンに住むビアトリスの家族は夏になると避暑のためにスコットランドで過ごすのを恒例としていましたが、1882年は湖水地方を訪れます。彼女が16歳の時でした。そこで牧師で自然保護に情熱を傾けていたハードウィック・ローンズリと出会います。その後、再訪する度に彼は彼女の描く植物や動物に芸術的な才能を見抜き、その世界を作品として発表することを勧めます。それが1901年自費出版「ピーター・ラビットのおはなし」となって世に出るのです。たちまち好評をもって受け入れられました。それと併行して、彼の影響から湖水地方の自然保護に強い関心を寄せていくこととなります。

1902年、彼が中心になってナショナル・トラストで絵本「リスのナトキン」にもでてくる湖を美しい原状のままに守ろうと運動した時、彼女が湖のスケッチを描いて協力し、成功に導きます。そして、1905年家族からの自立を考えていた彼女は、婚約者の死を切っ掛けに湖水地方のニア・ソーリー村の農場を購入します。そこが<ヒル・トップ(丘の上)>と呼ばれ、「こねこのトムのおはなし」「ひげのサムエルのおはなし」等のピーター・ラビットの物語に登場していきます。今は英国ナショナル・トラストが所有する記念館として公開され、湖水地方にとってシンボリックな資産になっています。

その後も「ピーター・ラビット」シリーズの絵本を上梓していき、彼女の作品は不動産の評価を得ていきました。そこで得た多額の印税は、その都度湖水地方の自然保護のために不動産の取得に充てたのです。そして、あの「リスのナトキン」の湖畔に夫となった弁護士ウィリアムと共に居を構え、1913年になると作家活動を止め、壮大となった所有する不動産の維持・管理に専念することにします。やがて1920年には敬愛してやまなかったローンズリが亡くなります。絵本作家として世に出した恩人ととどまらず、ナショナル・トラスト運動の創始者のひとりとして自然保護活動に傾ける彼の人間性に心酔していました。彼女にとって人生の生き方を決定させ、後ろ姿を追う存在であったのです。

彼女は1943年77歳で生涯を終えますが、遺言で4000エーカー以上所有する農場・コテージ・土地の全てを英国ナショナル・トラストに遺贈します。現在国立公園となっている湖水地方の25%が英国ナショナル・トラストによって保全され、彼女の果たした役割は極めて大きなものでした。そこには、ワーズワース、ラスキン、ローンズリという先達による精神をビアトリス・ポターが継承し、それを英国ナショナル・トラストが保存・管理していくという歴史の連鎖によって湖水地方の今日が築き上げられてきたと言えるでしょう。

中島 紘

私達は6年前から「コウノトリの郷との交流」として、毎年春秋の2回、豊岡市祥雲寺地区に「コウノトリ育む農法」を展開しておられる畷悦喜さんの所を訪ねています。春は大人も子供も裸足になって田んぼに入って、田植えや田の草取りをしたり、また、畷さんはじめ農業普及改良センターやコウノトリの郷研究所の研究員の方から無農薬農法のことや、田んぼやその間を流れる水路に棲む色々な生き物のこと、そしてコウノトリのこと等、色々なことを教えていただきました。秋には実際に鎌を手にとって稲刈りをしました。お昼に、コウノトリ米を炊いた美味しいおにぎりや、参加者腕よりのおかずで舌鼓みを打ちながら行う地元の方々との交流も楽しみの一つとなっています。

一汗かいて、緑に広がる田園を渡ってくる爽やかな風に吹かれながら、大空を舞う勇壮なコウノトリを眺めるのは、まさに至福と言っていいいでしょう。

さて、このコウノトリですが、ご存知のように昔から飛んでいたコウノトリではありません。再生コウノトリです。

そもそも明治の頃までは、日本各地の里山にいた日本コウノトリですが、近代化に伴う自然環境の悪化とともに、徐々に減少を続けます。そしてついには昭和46年、豊岡市で最後の野生コウノトリの一羽が姿を消すことになるのです。そんな中で、兵庫県からの委託を受けた豊岡市は昭和40年代から野生コウノトリを捕獲して人工飼育、繁殖を行う計画をスタートさせました。そして当時20代の飼育員松島興治郎さんの献身的な努力を経て24年目、平成1年9月、ついにハバロフスクから寄贈された同種のコウノトリから雛の孵化に成功したのです。以来、繁殖が軌道に乗り、繁殖コウノトリ100羽を期して平成17年9月、5羽のコウノトリの自然界放鳥に至るのです。このコウノトリ放鳥（自然界復帰）に至るまでに実に多くの人々の、情熱、努力、尽力があるわけですが、特に重要な役割を果たしてこられたのが、一帯の自然環境回復に取り組んでこられた地元農家の方々であると思います。そもそも、コウノトリ絶滅に至ったのは、湿田の乾田化や農薬使用によるエサ（魚や蛙、ドジョウやタニシ、蛇、他水辺の生き物）の激減、消滅やコウノトリの健康障害、繁殖能力低下、営巣となる松の巨木の伐採等が原因となっています。ですから、再びコウノトリを自然の中に呼び戻す為にはエサと安全な環境を提供することが必要でした。それはつまり、地域の農業の無農薬有機農業化を意味します。それには地域農家の意識改革を行い、理解と協力を得なければいけません。しかしこのことは、言うは易く行なうは難し、実に困難なことでした。それは、いまや楽をして効率的かつ効果的に収穫が得られるようになった現代の農業と真っ向から対峙することだったからです。しかしこれは、避けて通れないことであり、「コウノトリと人が共生できる環境作りをしよう！」と行政の担当者を中心とした関係者による地道な辛抱強い働きかけが地元農家に行われました。また従来、この地域には篤農家が多く存在し、比較的理解を得やすかったこと、元々無農薬農業を目指している人がいたこと、さらに畷さんのように実行力、指導力のある方がおられたことも幸いしてなんとかコウノトリ放鳥に向けた環境改善が整ったのでした。

しかしそれにしても、関わった人々の努力、苦労は並大抵のものではなかったと思います。私達アメニティ2000協会は、環境保全活動の一環として、無農薬農業への関わり、支援を行っており、畷さん達のような農家の方々との交流を通して、色々なことを学ばせていただくと同時に支援や協力も行いたいと思っています。そのあたりをご理解いただいて、参加して楽しむとともに学んだことを自らの生き方、生活の中に生かしていただけたらと思います。これからも一人でも多くの方がこのコウノトリ交流に参加いただくよう願っております。



田んぼでの田植え

《お薦めの本》

御厨 貴著 権力の館を歩く

久保 恵子

京都は東山山麓、南禅寺近く無鄰菴はある。明治の元老山形有朋の元別荘で、現在、庭園建物は公開されている。洋館二階の一室は、日露戦争直前の、いわゆる「無鄰菴会議」の行われた場所であり、かつてこの部屋を目の当たりにし、歴史のターニングポイントに遭遇したような臨場感に襲われた。以来、政治と建物の関わりに関心を持っていたところ、「建築が政治を決め、政治が建築を決める」という見出しの本書に出会った。この本は、毎日新聞朝刊に2007年～2011年間に連載された記事の集大成を「権力の館を歩く」として刊行したものであり、内容は、まさに権力の館にふさわしく、著者が館政治を行った人物の嚆矢と位置づける、西園寺公望「座漁荘」から始まり、吉田茂大磯御殿など歴代首相の自邸、別邸、小沢一郎深沢邸まで。次いで、国会議事堂など権力機構の館、政党権力の館と続く。出来る限りの写真、見取り図、所在地、が挿入され、その範囲は、東京霞が関、永田町界隈から都区内、神奈川県、静岡県、長野県軽井沢と広汎にわたっている。政治学と建築学との見事なコラボレーションの賜といえよう。フィールドワークはもとより、聞き取りなどによる取材で、館で繰り広げられた政治上の意思決定の過程を、時にエピソードを交えながら、権力者達の人間像も浮き彫りにしている。建物が政治を規定しているのではないか、読み進むうち、いつしか館に入り込んでしまう。

(毎日新聞社刊)

<次回は中石貴子さんをお願いします>

予告3

町並み研究会～和歌山

3月に予定していながら震災の影響で延期した和歌山への一泊旅行を12月に実施します。行程、宿泊とも同じです。暮れの忙しくなる前に和歌山でのひと時を楽しんでみませんか。詳しくは次号でご案内します。

月日 12月11日(日)～12日(月) 宿泊 白浜・梅樽のホテルシーモア

参加費 会員27,000円 一般32,000円

◇◆◇おしゃべリアラカルト◇◆◇

東日本大震災被災者支援コンサート

ばんだ晴紀子

東日本でおきた未曾有の大地震から早五ヶ月がたちました。大勢の人が亡くなり、未だ行方不明の人達がいらっしやる事を聞くと胸の締め付けられる思いがします。そこで7月23日土曜日、神戸栄光教会においてアンサンブル・アメニティによる東日本大震災被災者支援コンサートを開く事に致しました。メンバーは御存知テノールの畑儀文さん、リュートとアーリーギター奏者の高本一郎さん、ヴァイオリン奏者の赤松由夏さん、ハーブ奏者の春木浩子さん達です。暑い真夏の午後果たしてどれ位の人がおこしくださるか少しばかり心配していました。ところが続々と大勢の方がこられ、何と満席となり、補助椅子を並べる程になりました。

さて次は曲目ですが、誰でも知っている懐かしい曲をはじめ、スコットランド民謡、アイルランド民謡など盛りだくさんで大サービスのアンコール。最後には全員客席の私達も共に合唱するなど暑さを忘れる程とても楽しい一時でした。但し畑さんは司会も兼ねてくださっていたので汗だく、何度も顔を拭いていらっして本当に申し訳なく思いました。畑さん、お疲れさまでした。

すべてが終り会場を後にする頃は少し涼しくなっていました。帰途につかれる方々が思いなしか満ちたりた穏やかな笑顔でいらっしやったのがとても印象的でした。コンサートは大成功と云えるのではないのでしょうか。感謝です。



東日本大震災被災者支援コンサート

吉田 敬子

7月23日、神戸栄光教会にて東日本大震災被災者支援コンサートが開かれました。今回はテノール歌手の畑儀文さん、バイオリンの赤松由夏さん、リュートの高本一郎さん、ハーブの春木浩子さんというアンサンブルアメニティのフルメンバーによる演奏会。ユーモアあふれる畑さんの司会により、前半は私達にもなじみのあるクラシックの名曲の数々にうっとり。後半は日本の歌が中心で、赤松さんのヴァイオリンによる啄木の「初恋」、そして啄木の短歌に新井満氏が曲をつけた「啄木組曲」もしみじみと胸を打つものでした。

次に明治14年発行の小学唱歌集から数曲が紹介されましたが、当時の小学唱歌は西洋から入ってきた讚美歌のメロディに、全く違った意味の日本語の歌詞がつけられたものが多く、「むすんでひらいて」もそのひとつだという話には驚かされました。そのあとスコットランド民謡「アニーローリー」、アイルランド民謡「庭の千草」「ロンドンデリーの歌」と続き、最後は日本の「夏の思い出」でしめくられました。

暑い夏の一日の昼下がりでしたが、チャペルの中はさわやかな風が吹いているような心地よさがただよい、心休まるひとときでした。

六甲山荘だより

8月の六甲山荘はにぎやかでした。貸し切り、写生会、園遊会と大勢のお客様をお迎えしました。また別項でご報告したように、震災被災者の家族の宿泊もありました。下界は猛暑でも六甲山荘の庭ではヒグラシの涼しげな声が聞こえます。特に宿泊すると夜の静けさ、朝の清々しさを堪能できて、これぞ山荘ライフ！と実感します。それだけに下界へ降りたときの暑さがこたえますが。



霧に包まれた六甲山荘

私たちの手でヴォーリス六甲山荘を育てましょう！

ヴォーリス六甲山荘募金報告（目標金額2000万円）

7月の募金状況 10,000円<累計9,191,248円(644名から1,622口)>
会員10,000円(2名から2口)<累計4,925,970円(461名から975口)>
一般1円(2名から3口)<累計3,348,745円(201名から666口)>
一般団体 0円<累計81,000円(5団体から16口)>
その他 0円<累計832,883円>

振込口座・郵便局 00950-5-36168 アメニティ2000協会

***ご寄附いただきました**

村山多紀子さん
掛け時計、食器
六甲山荘の台所で活躍
しています。ありがとう
ございました。

ブラックベリーのジャム

御旅屋晴子さんがブラックベリーをたくさん
くださり、それを村上勢津子さんがおいしい
ジャムに炊いてくださいました。
六甲山荘の喫茶で使用していますが、余分が
少しありますので、ご希望の方にお頒けしま

お願い

11月3日に恒例の**ほりだし市**を
開催します。出品・販売する手作
り作品を募集します。例年とくに
食品が喜ばれるようです。出品い
ただける方はご連絡ください。
お待ちしております。



写生会の昼食・・・ピザが美味しかった！



写生会・・・いい絵が描けたかな